

## 審議のためのペーパー

審議順

3

## I. 「論点1」について

子どもたちの発達段階(幼保・小・中・高)に応じた、学校における郷土教育の推進

◆意見集約により整理した、2つの方向性を議論全体の基本的な前提(横串となる考え方)とする。

- ①…学校教育全体のスパンでみた、小学校の時期における体験教育、郷土教育の重要性
- ②…地域における体験、本物に触れる郷土教育の、将来の成長・人間形成における重要性を加えて、

新たな論点の検討 → 「論点1」の「論点内論点」的に位置づけるものとして

◆「国際的な視野から見た、特に中学・高校段階における郷土教育の推進」

## II. 「論点2」について

地域資源や人材の活用

◆具体的な課題として、他に考えられるものはあるか？

【既】地域の施設等に学校などで体験訪問するためのバス等の手段の確保

◆郷土教育に生かせる地域の資源として、他に考えられるものは？

【既】博物館等の施設、有名人、歴史上の人物、伝統工芸品、史跡  
無形の文化(ex 忍者、茶道など「道」文化)

など

◆期待できる地域の人材とはどういう人か？

【既】多様な経験・能力を持つ退職者、絵や書道等の一芸を持つ人

◆教職員に求められる具体的な「資質」とは？

子どもへの郷土教育の「糸口」としてどのようなものを持つべきなのか？

審議順

1

## III. 「論点3」について

教材コンテンツや情報発信

◆「三重の文化」について、「活用方法」のさらなるブラッシュアップ策はどうか？

◆「美し国かるた(仮称)」について、「制作コンセプト」「活用方法」のさらなるアイデアはどうか？

◆「本物文化体験」ホームページなどの、県が提供するコンテンツの充実に向けた方策は？

◆コンテンツの発信、広く学校や県民への周知・PRに向けた方策は？

◆「双方向」ないし「多方向」の情報発信、郷土教育を展開するための方策は？

子ども ↔ 先生(大人)

子ども ↔ 子ども ↔ 子ども

↓↑

先生(大人)

◆メディア活用等も含めた、郷土教育・体験教育、情報発信の方策はどうか？

※学校 — 地元 — 市町(地域) — 生活圏 — 三重県 — 広域圏 — 日本 — 世界

審議順

2